

### 3 学習センター活動報告

#### 3.1 言語学習センター活動報告

##### 1. 構成員

センター長（1名）、副センター長（1名）、専任教員（1名）、係員（1名）

【表1】学生チューター内訳表（計31名）

	1年次	2年次	3年次	4年次	交換留学生	院生	研究生	科目等履修生	合計
前期	0	6	3	4	1	0	0	0	14
後期	3	5	6	1	2	0	0	0	17

◇2019年度は前期14（日9：\*外5）名、後期17（日11：\*外6）名のチューター体制で運営した。

※(外)は正規留学生、交換留学生を含めた外国人学生を意味する

対応可能言語：英語・日本語・ポルトガル語・タガログ語・韓国語・中国語・マレー語・スペイン語（8か国語）

※今年度前期は2名、後期は3名（うち1名はボランティアチューター）の日本語専属チューターを配属した。

##### 2. 言語学習センターの活動目的

- (1) 学生に外国語を学ぶ最良の場を提供する。
- (2) 学生チューターが学生の自主学習の促進と学力向上をサポートする。
- (3) 学内外の語学学習者に異文化交流（理解）の機会を提供する。
- (4) CRLA(College Reading & Learning Association)の免状によるITTP (International Tutor Training Program) 修了証明書の取得によって学生（チューター）の質の向上を目指すとともに、よりよい学習支援と学習環境開発を目指す。

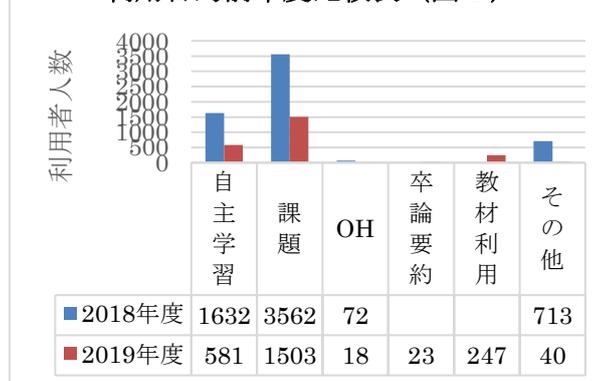
##### 3. 2019年度言語学習センター利用状況

###### (1)LLC利用者統計

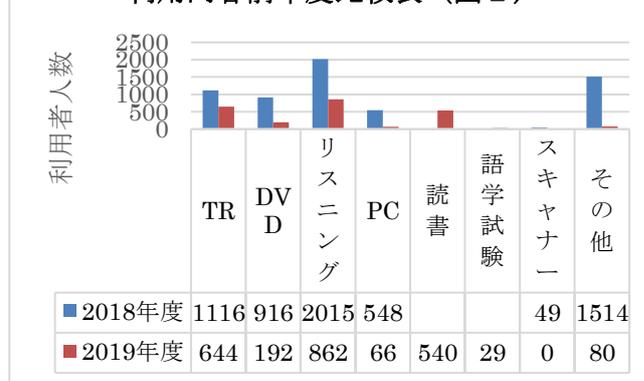
【表2】2018年度と2019年度の月別利用者前年度比較表（平成31年04月11日～令和2年02月07日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	WS	合計
2018年度 延べ人数 (実人数)	726 (400)	1107 (455)	645 (276)	781 (329)	110 (80)	6 (6)	515 (234)	594 (238)	455 (221)	657 (313)	152 (114)	355(前) 99(後)	6202
2019年度 延べ人数 (実人数)	292 (204)	592 (276)	582 (257)	875 (365)	58 (42)	17 (14)	779 (300)	476 (196)	391 (192)	644 (339)	105 (77)	109(前) 63(後)	

利用目的前年度比較表（図1）



利用内容前年度比較表（図2）



昨年度（2018年度）と比較して利用者数全体の約20%減となっているが、特に表2と図1から課題利用者の減少とワークショップ（以下WS）参加者人数が減少していることがわかる。このことから、LLC利用者数は授業連携課題とWSに頼り過ぎていることがわかる。LLCのイメージは、「外国語のレベルの低い学生が支援を受ける場所」あるいは「課題を果たす場所」のイメージが大きい可能性があり、さらに上を目指す学生の利用が少ないことと、課題によって外国語能力向上を強いられる学生の利用がほとんどである。そのため、もともとのLLCの目的である「どの学生にも」「外国語を学ぶ最良のスペースを提供する」ことから考慮すると、外国語能力向上に貢献するLLC独自の継続性のある語学試験対策WSや留学前の異文化理解にかかわるWSなど、本学生のニーズにあった活動を展開する必要がある。教材に関しても、さらに上を目指す学生を対象とした教材や現在そろっている教材を効果的に宣伝することで本学の学生の益となるように工夫しなければならない。一方、効果のあった成果としては、中国語のチューターの雇用が前期後期とも3名雇用されたこともあり、中国語の授業連携が成功した。231名（全体の4%）が中国語課題のためにLLCを利用した。昨年度から開始された日本語専属チューター制度も、日本語教員との授業連携やWSの開催などで留学生の利用が定着しつつある。後期に実施したWSについては、初めて高校生を対象とした英語WSであるため、内容はよく準備されていたが、日程調整、宣伝方法、ニーズ調査が十分でなかったため、企画者に対して少なすぎる参加者となった。しかしながら、これらの結果から次回から何をどのようにすれば効果的に実施できるかヒントをつかむ経験となった。

## (2)LLC 図書利用状況

【表3】2018年度と2019年度の学年学科別LLC図書利用者比較表（平成31年4月11日～令和2年2月7日）

	1年国	1年看	1年ス	2年国	2年看	2年ス	3年国	3年看	3年ス	3年E	4年国	4年看	4年ス	E年特	G1国	G1助	合計
2018	1078	259	5	102	1	0	23	8	0		33	2	0	2			1513
2019	1114	0	0	68	0	1	34	0	0	0	26	0	0	8	2	0	1253

全図書数：4,630冊（3/3現在）

LLC 図書の貸出し状況は、英語の課題としての多読図書の利用が多く、英語が必修の一年次の利用が顕著に表れている。また、英語能力試験の図書利用も多いため、国際学群の利用が多いのが特徴である。

## 4. 令和元年度授業連携（添付資料参照）

授業連携については、英語科目や第二外国語科目（日本語、スペイン語、中国語）との連携があった。

【表4】授業連携対象者および利用者前年度比較表

	教員数		クラス数		対象者数		実際の利用者数 (%) (課題利用者÷**延べ人数×100)
	英語	*外国	前	後	延べ人数	実人数	
2018年度	8	3	20	21	1296	1056	(3562÷5748×100=) 61.9%
2019年度	9	3	19	22	1224	982	(2412÷4811×100=) 50%

\*外：日本語を含む第二言語（英語以外の言語）

\*\*延べ人数：WS参加者人数を除いたLLC利用者数

【表5】2019年度LLC連携課題の種類表

2019年度 授業連携表	講義数		課題種類					
	前期	後期	TR (チュータリング)	リスニング	DVD	書籍	活動 ゲーム	*その他
英語	15	16	12	18	7	10	0	6
第二外国語	4	6	10	6	0	6	0	7

\*「その他」にはeラーニングや自主学習、プレゼンテーション準備等の課題を含んでいる。

言語学習センターの令和元年度授業連携は英語が9名の教員による31クラス、第二言語（日本語を含む）が3名の教員による10クラスで、合計：実際の対象者数982名（延べ対象者数1224名）を対象に実施した。結果、全体の統計利用者延べ人数4811に対し、ちょうど50%の2412人が実際に課題でLLCを利用した。課題内容は昨年度とあまり変化はないにもかかわらず、昨年度に比べて11%減である原因については今後明確にする必要がある。課題にはチュータリングによる発表準備、英文法、読解、オンラインプラクティス、視聴覚教材によるリスニングプラクティス、多読多聴などがあった。

## 5. チュータープロジェクト

各チューターは自身の得意分野や経験を活かし、学生の外国語学習を支援するワークショップあるいは LLC の運営改善を目的にしたプロジェクトを計画・実施する。以下は今年度を実施されたプロジェクトである。今年度の特徴は、前期後期の年間を通して完成させたプロジェクトが 3 件あり、LLC で初めて高校生を対象にした英語ワークショップを開催したことである。(a) (b) (c) は、同一の継続チューターが引き続き前期に実施したプロジェクトを後期でさらに開発を進め完成させた。後期に開催された「話と書が弾む英語ワークショップ」は、今後日本の英語教育において重視されるスピーキングとライティングに焦点を当て、北部地域の高校生を対象に実施した。(＊詳しい結果等は発表会報告を参照のこと)

### 前期 (計 7 プロジェクト)

- ①イギリス英語とアメリカ英語ワークショップ
- ②中華文化ワークショップ
- ③洋楽ワークショップ
- ④カナダストーリープロジェクト
- ⑤LLC ビデオブログ (a)
- ⑥LLC ウェブサイト更新プロジェクト (b)
- ⑦人材育成のためのワークショップ支援プロジェクト (c)

### 後期 (計 6 プロジェクト)

- ① 話と書が弾む英語ワークショップ
- ② スペイン語ワークショップ (¡Hola Amigos!)
- ③ LLC ビデオログ 2 プロジェクト (a)
- ④ LLC ウェブサイト更新プロジェクト 2: 日本語版ウェブサイトとウェブサイト管理マニュアル作成 (b)
- ⑤ ワorkshopハンドブック作成プロジェクト (c)
- ⑥ 日本語ワークショップ「あっぱれ日本語! 日本の魅力伝え隊!!」

## 6. チューター育成について

### (1) チュータートレーニング

LLC では、チューター技術向上のために、米国 CRLA(College Reading & Learning Association)による ITTPC(International Tutor Training Program Certificate)国際チューター育成プログラムを導入し、毎週一回 (2 時間) トレーニングを開催している。トレーニングの内容は次のとおりである。

(レベルは初級レベルから L1=レベル 1・L2=レベル 2・L3=レベル 3 となる)

#### 前期

回	日時	トレーニングの表題
集中研修会 (マネジメント)	4 月 10 日	★CRLA Criteria and LLC Tasks ★How to prepare for a training session [Experienced Tutors] ☆Desk 1 (Lecture+Discussion) ☆Desk 2 (Practice) ☆Materials (Lecture+Practice) ☆Section works (Lecture+Practice)
第 1 回	4 月 12 日	1. Definition of Tutoring & Tutor Responsibilities (L1)
集中研修会 (チュータリング)	4 月 13 日	2. Techniques for Successful Beginning & Ending a Tutoring Session (L1) 3. Basic Tutoring Guidelines Do's and Don'ts (L1) 4. Identifying & Using Resources (L2) 5. Setting Goals/Planning (L1)
第 2 回	4 月 19 日	6. Assertiveness and/or Difficult Students (L1)
第 3 回	4 月 26 日	7. Communication Skills (L1)
第 4 回	5 月 10 日	8. Group Management (L3)
第 5 回	5 月 17 日	CRLA プロジェクト案 発表会
第 6 回	5 月 24 日	9. The Role of Learning Centers in Higher Education (L3)
第 7 回	5 月 31 日	10. Training & Supervising other tutors (L3)

第 8 回	6 月 07 日	11. Referral Skills (L1) 12. Role Modeling (L1)
第 9 回	6 月 14 日	13. How to Tutor/Deal with Target Population (L3)
第 10 回	6 月 21 日	14. Tutoring in Specific Skills / Subject Area (L2)
第 11 回	6 月 28 日	15. Use of Probing Questions (L2)
第 12 回	7 月 05 日	新チューター選考会議 (令和元年度後期)
第 13 回	7 月 12 日	16. Cultural Awareness and Inter-Cultural Communication (L2)
第 14 回	7 月 19 日	LLC ワークショップ&プロジェクト発表会リハーサル
第 15 回	7 月 26 日	LLC ワークショップ&プロジェクト発表会
第 16 回	8 月 02 日	Summary for the Semester ( Tutor's feedback & Professors' feedback )

## 後期

回	日時	トレーニングの表題
集中研修会 (マネジメン ト)	09 月 26 日	★CRLA Criteria and LLC Tasks ★How to prepare for a training session [Experienced Tutors] ☆Desk 1 (Lecture+Discussion) ☆Desk 2 (Practice) ☆Materials (Lecture+Practice) ☆Section works (Lecture+Practice)
集中研修会 (チュータリング)	09 月 25 日	1. Definition of Tutoring & Tutor Responsibilities (L1) 2. Techniques for Successful Beginning & Ending a Tutoring Session (L1) 3. Basic Tutoring Guidelines Do's and Don'ts (L1) 4. Identifying & Using Resources (L2) 5. Training & Supervising other tutors (L3)
第 1 回	10 月 04 日	6. Setting Goals/Planning (L1)
第 2 回	10 月 11 日	7. How to Tutor/Deal with Target Population (L3) ★How to deal with tutoring in abstracts.
第 3 回	10 月 18 日	8. Assertiveness and/or Difficult Students (L1) 9. Role Modeling (L1)
第 4 回	10 月 25 日	CRLA Project Proposal
第 5 回	11 月 01 日	10. The Role of Learning Centers in Higher Education (L3)
第 6 回	11 月 08 日	11. Group Management(L3)
第 7 回	11 月 15 日	12. Referral Skills (L1)
第 8 回	11 月 22 日	13. Communication Skills (L1)
第 9 回	11 月 27 日	14. Tutoring in Specific Skills / Subject Area (L2) ★How to deal with non-JP students.
第 10 回	12 月 06 日	15. Use of Probing Questions(L2)
第 11 回	12 月 13 日	16. Cultural Awareness and Inter-Cultural Communication (L2)
第 12 回	12 月 20 日	新チューター選出会議 (令和 2 年度前期)
第 13 回	01 月 10 日	LLC ワークショップ&プロジェクト発表会リハーサル
第 14 回	01 月 24 日	LLC ワークショップ&プロジェクト発表会
第 15 回	01 月 31 日	Summary for the Semester ( Tutors' feedback & Professors' feedback )

## (2)チューター評価

チュータートレーニングの一環として、以下の三つの評価を行った。

### ▶ チュータリングの評価

チューター同士がお互いのチュータリングを評価し、良い点や改善点を指摘する。学期に三回実施した。

### ▶ チューター自己評価および他者評価面接

教員とのチューター評価面接を各学期に実施 (前期 3 回・後期 2 回) した。

▶ チュータリングを受けた学生からの評価

チュータリングを受けた学生から、チュータリングについての評価。チューターは最低 5 名以上の利用者からチュータリングに関しての評価をうけた。

7. CRLA によるチュータートレーニングプログラム修了証明書 (ITTPC) 取得者数

【表 6】 ITTPC 取得者数 2018 年度と 2019 年度比較表

	マスター(L3)		アドバンス(L2)		サーティファイド(L1)		取得者合計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
2018 年度	2	2	4	5	6	7	26
2019 年度	1	2 (予定)	2	1 (予定)	6	9 (予定)	21 (予定)

\*2002 年度後期から 2019 年度後期 (3/11 日現在) で、合計 345 人の学生が修了証明書を取得する予定となっている (マスター48 名、アドバンス 101 名、サーティファイド 196 名)。

8. 新企画活動報告

① 日本語専属チューターボランティア 1 名の採用

日本語専属チューター制度は 2 年目に入るが、今年度後期に採用条件の日本語教師副専攻の単位数取得が間に合わず、ボランティアとして活動したいとの要望があったが、LLC 運営委員会等で承認を得、採用決定した。正規雇用のチューター同様の働きをし、来年度も継続が決定した。ボランティア採用については、International Tutor Training Program Certificates (ITTPC) の取得を認めない方向に決定していたが、ボランティアであっても十分な成果を上げた場合は、取得できる可能性を考慮する必要がある。

② LLC ウェブサイトの更新 (チュータープロジェクトおよび学長裁量経費プロジェクト)

本学内のメール等が Google になったことから、チャム ミン ションさん (3 年次・マスター) がタンエンハイ先生 (LA 機構) の指導の下、学長裁量経費および LLC プロジェクトとして既存の LLC ウェブサイトを更新した。さらに後期には、英語と日本語のバイリンガル版を作成し、後輩たちが継続して更新できるようにウェブサイト更新マニュアル作成も行った。チャムさんは IT 専攻ではなかったが、この機会に IT を視野に入れた将来のキャリアを考え始めていると話している。このプロジェクトは、個々の隠れた才能を開花させる機会になっていることを改めて実感した。

③ Google による入退室管理システムおよびオンライン予約システムの稼働開始 (立津先生)

全学内メールが Google に切り替わったことから、TEC システム (外部企業) に頼らず本学独自の入退室システムの構築が実現した。それに伴い、以前学生が作成し使用していた予約システムを完全にウェブサイトにつなげたオンライン予約として稼働した。一学期間 (後期) の試用結果、いくつかの変更が必要であるが、学期間中はスムーズに運用できていた。長期休暇中にさらに整備をすすめ、3 学習センターで統一するデータおよび LLC での必要データの決定をし、整理する予定である。

③ LLC 初の高校生向けワークショップ開催

MWC および MSLC が先駆けて高校生を対象に実施している入学前特別講座をうけて、LLC でも初めて高校生対象に学生チューターを中心に英語ワークショップを実施した。北部地域の高校へのアクセス方法など実際に経験のある MWC、MSLC の協力を得て行った。土曜日 (2 回) 午前中の 2 時間半のプログラムでそれぞれ英語検定準二級および二級の 2 つのクラスに分級して実施した。しかしながら、高校生の状況把握が不十分だったことから参加者が少なかった。これらの反省点を生かし、来年度開催の入学前特別講座への参画に備えていく予定である。

④ 3 学習センター合同研修会

以前開催されていた 3 学習センター合同研修会が再開された。この試みは、11 月に開催される第一回日本リメディアル教育学会 九州・沖縄支部会主催チューターフォーラムに参加する際に、本学の各センターの取り組みをまとめて発表するために、お互いの情報共有および課題について話し合うために行った。MSLC 担当の高安先生を中心に行った。参加者からは学びが多かったと評価も高く、今後の継続も期待される。

⑤ 第一回チューターフォーラム参加 (日本リメディアル教育学会 九州・沖縄支部会主催)

日本で初と思われる学習支援者であるチューターフォーラムが開催され、本学からは 3 学習センター合わせて 17 名が参加した。LLC からは学会アルバイト 2 名、フォーラムに 3 名が参加した。(詳細は令和元年度第 5 回リベラルアーツ機構運営委員会資料参照)

## 9. その他の活動

- 4月：LLC チューターオリエンテーション（10日・13日）  
新入生ガイダンス（11日～26日）LLC の紹介  
平成31年度前期英語教員ミーティングにてLLC オリエンテーション実施（8日）
- 5月：第一回チューター評価面接（7日～31日）  
プロジェクト案 発表会（17日）  
プロジェクト実施（5月20日～7月12日）  
名桜大学リーダーズ会議参加3名（28日）
- 6月：チューター公募期間（10日～28日）  
全国大学生協学びと成果事業協議会による3学習センター視察（6日）  
第一回オープンキャンパス参加（8日）
- 7月：チューター選考会議（5日）  
琉球大学（Global Commons Concierge: GCC）学生（7名）とLLC チューターの交流会（8日）  
第二回チューター評価面接（8日～31日）  
LLC 前期ワークショップ&プロジェクト発表会（26日）
- 8月：第二回オープンキャンパス参加（10日）
- 9月：LLC チューター後期オリエンテーション（26日・28日）  
令和元年度後期英語教員ミーティングにてLLC オリエンテーション実施（27日）
- 10月：3学習センターチューター合同事前研修会（24日）  
プロジェクト案 発表会（25日）  
プロジェクト実施（28日～12月25日）  
第一回チューター評価面接（23日～11月15日）
- 11月：神田外語大学（教員3名・学生3名）LLC トレーニングミーティング参加（22日）  
実践女子大学（教員1名）・九州龍谷短期大学（教員1名）LLC 視察（22日）  
第一回チューターフォーラム（リメディアル教育学会 九州・沖縄支部会主催）にLLC から3名参加（23日）  
大阪体育大学（教員1名） 学習センター視察対応（25日）  
チューター公募期間（25日～12月13日）
- 12月：沖縄キリスト教学院沖縄キリスト教短期（教員1名・学生2名）LLC 視察（23日）  
チューター選考会議（20日）  
第二回チューター評価面接（23日～1月24日）
- 1月：LLC 後期ワークショップ&プロジェクト発表会（24日）  
琉球大学GCC（教員2名・学生1名）LLC プロジェクト発表会参加（24日）
- 2月：愛媛大学（教員1名） 視察（4日）  
聖路加大学（教員1名） 視察（12日）

※視察6件

以上

提案：視察受け入れに関して、視察対応数を減らし、効果的な時間の使い方および本学の宣伝効果向上のため、3学習センターが同時期（同日程）に視察対応キャンペーン（仮名称）を設けることを提案する。

（文責：言語学習センター 笠村 淳子）

## 3.2 数理学習センター活動報告

### 1. MSLC の基本理念

- ① MSLC は、優しさ・笑顔・努力を大事にする学びの空間です。
- ② MSLC は、学生の数理能力の向上と自主学習の促進を目的とした学習支援機関です。
- ③ MSLC ピア・チューターは、寄り添う学習支援を心がけ、向上心を持ち、自己実現を目指します。

### 2. MSLC の目標

- (1) 数理系科目の学習支援及び数学苦手克服支援により学生の数理能力の向上を図る。
- (2) チューター主催の講座を実施し、チューター及び学生に数理系分野の興味・関心を広げる。
- (3) チューターの数理能力の向上、チュータリングスキルの向上、社会人基礎力の向上を図る。

### 3. MSLC チューターの重点努力目標

- (1) コミュニケーションスキルの向上
- (2) チューターの積極性と責任
- (3) 幅広い活動

### 4. 数理学習センター構成員

- ・センター長：1人 副センター長：1人 センター職員：1人
- ・学生チューター 前期：15人 後期：13人

表1 2019年度前期 年次別・ランク別チューター数

	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
チューター	3	6	4						7	6
レギュラーチューター			5	4			1		6	4
アドバンスチューター				2	1				1	2
マスターチューター							1	1	1	1
合計	3	6	9	6	1	0	2	1	15	13

### 5. MSLC 運営

- ① 会 計 ・ 出 面 表、勤 務 交 代 表 の チェック ・ 勤 務 時 間 表 作 成
- ② 広 報 & メ デ ィ ア ・ 月 刊 MSLC 作 成 ・ 名 桜 広 報 の 原 稿 作 成 ・ ポ ス タ ー 等
- ③ 施 設 衛 生 ・ 書 籍 管 理 (登 録、確 認、移 動) ・ 備 品 管 理 (発 注) ・ 電 卓 貸 出
- ④ 利 用 者 統 計 ・ 月 別 利 用 者 統 計 ・ シ フ ト 作 成 へ の 提 案 ・ TR 時 間 集 計  
・ TR 個 別 デ ー タ の 管 理

### 6. 2019年度 利用者統計 まとめ

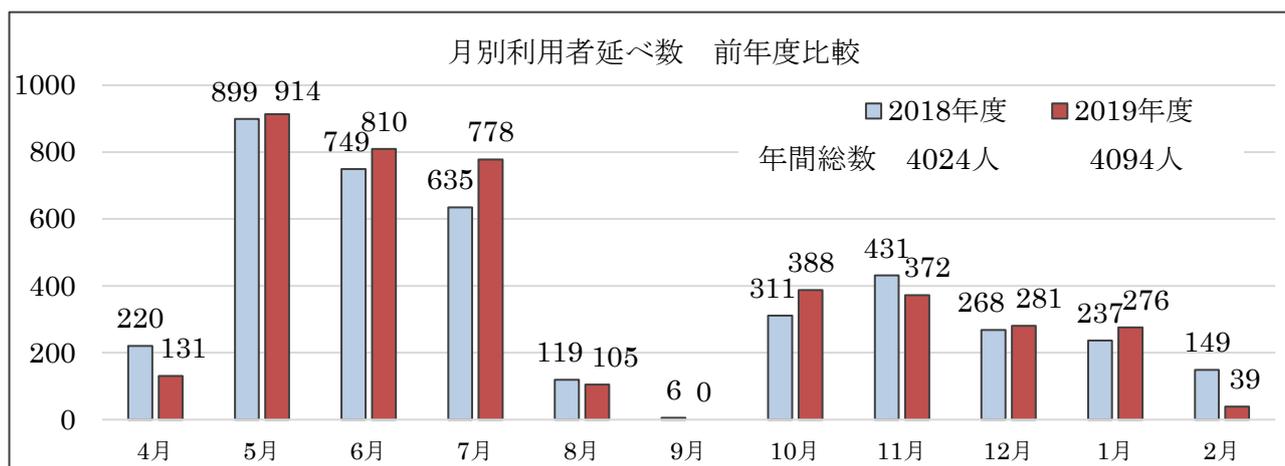
#### (1) 2019年度 MSLC 月別利用状況

表 2019年度 (前期・後期) 月別利用者数

月	前 期						後 期						年間 合計	
	4	5	6	7	8	小計	9	10	11	12	1	2		小計
延べ数	131	914	810	778	105	2738	0	388	372	281	276	39	1356	4094
実人数	94	243	244	237	91	365	0	136	137	131	104	27	211	576
平均回数	1.4	3.8	3.3	3.3	1.2	7.5	0	2.9	2.7	2.1	2.7	1.4	6.4	7.1
授業日数	12	20	22	23	6	83	1	22	18	17	18	5	81	164
1日平均人数	10.9	45.7	36.8	33.8	17.5	33.0	0.0	17.6	20.7	16.5	15.3	7.8	16.7	25.0

(※ 実人数の合計は前期と後期の単純合計)

(2) 2019年度月別利用状況（前年度比較）



(3) 2019年度 学科別・学年別利用状況

合計	1年		2年		3年		4年		その他		合計		年間	
	前期/後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
国際学群		762	791	515	334	71	61	63	4	0	3	1411	1193	2604
スポーツ健康		135	29	9	8	3	1	13	5	1		161	43	204
看護		1067	117	10	0	43	0	17	0	1		1138	117	1255
その他										28	3	26	5	31
合計		1964	937	534	342	117	62	93	9	30	6	2738	1356	4094

【考察】看護学科の必修科目「統計学」と自然科学特別講義「統計学基礎」の受講者が、前期に多いため前期に偏りが生じている。前期は、リメディアル教育の学習支援が多くなるため、チュータリング時間も長くなり課題となっており、対応の方法を検討している。

(4) 2019年度 目的別利用延べ人数と割合

	目的名	自習	点検・TR	講座	PC	本	OH	SPSS	その他	合計
前期	人数	105	2445	129	25	7	28	4	60	2803
	割合 (%)	3.8%	87.3%	4.6%	0.9%	0.3%	1.0%	0.1%	2.1%	100%
後期	人数	46	1263	21	7	6	14	2	10	1369
	割合 (%)	3.4%	92.3%	1.5%	0.5%	0.4%	1.0%	0.1%	0.7%	100%

【考察】連携授業の点検・チュータリングが、利用者の87.3%を占めている。

(5) 科目別受講者数及び利用延べ数

	項目	数学	統計学基礎	統計学	診療情報	情報科目	その他	合計
前期	受講者数	17	60	115	29	96		317
	利用延べ数	273	1362	587	255	204	62	2743
	一人当たり回数	16.1	22.7	5.1	8.8	2.1		8.7
後期	受講者数	33	21	39	27	117		236
	利用延べ数	402	159	317	214	295	38	1421
	一人当たり回数	12.2	7.6	8.1	7.9	2.5		6.0

【考察】・統計学の受講者は前期が多く、後期は少ない傾向にある。できたら調整したい。

- ・情報科目は、まとめて2回に分けて提出するので一人当たりの利用回数は少ない。
- ・後期の数学と統計学基礎の一人当たりの利用回数はリターアーした受講生も含めた平均である。
- ・全体的に後期は前期より一人当たりの利用回数が少ない。

## 7. 2019年度 MSLC が関わった行事・チューター講座等

月	前期の活動内容	月	後期の活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度前期事前研修会（4月1日・2日）</li> <li>・数学検定対策講座（23日～）</li> </ul>	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修会（9月24日・25日）</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学自主課題対策講座（5月7日～28日）</li> <li>・診療情報管理士勉強会（5月9日～）</li> <li>・チューター面談（5月7日～14日）</li> <li>・新規チューターの募集（5月14～21日）</li> <li>・統計学Excel講座（5月21日～24日）</li> <li>・統計学中間試験対策講座（5月24日～5月30日）</li> </ul>	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学検定対策講座（10月25日～12月5日）</li> <li>・統計学自習課題対策講座（10月23・29日）</li> <li>・チューター面談（10月8日～12日）</li> <li>・統計検定対策講座（10月25日～12月5日）</li> <li>・看護に必要な計算力トレーニング（10月28日・31日）</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員採用試験対策講座</li> <li>・数学中間試験対策講座（6月12日～18日）</li> <li>・診療情報管理士勉強会</li> <li>・統計学中間試験対策講座（5月24日～30日）</li> <li>・新規チューター研修会（6月4日、5日）</li> <li>・オープンキャンパス（6月9日）</li> <li>・チューター面談（11日～21日）</li> <li>・数学検定対策講座（6月26日～7月19日）</li> <li>・中間試験対策講座</li> <li>・SPI対策講座</li> </ul>	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学中間試験対策講座（11月20日～12月3日）</li> <li>・天体観察キャンプツアー（11月28日・29日）</li> <li>・統計学中間試験対策講座（11月9日～）</li> <li>・看護に必要な計算トレーニング（11月1日）（中止）</li> <li>・名桜大学3学習センター合同研修会（11月日）</li> <li>・日本リメディアル教育学会九州・沖縄支部会 第1回チューターフォーラムへの参加（11月23日）</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学発展課題対策講座（7月2日・4日・8日）</li> <li>・数学期末試験対策講座（7月17日～7月30日）</li> <li>・統計学期末試験対策講座（7月26日～8月2日）</li> <li>・看護に必要な計算トレーニング（7月4日・5日）</li> <li>・統計学発展課題対策講座（9日～14日）</li> <li>・看護に必要な計算トレーニング（12日）</li> <li>・数学実用検定（7月20日）</li> <li>・SPI対策講座（～8月7日）</li> <li>・診療情報管理士勉強会</li> <li>・チューター面談（7月30日～8月3日）</li> <li>・2019年度前学期プロジェクト発表会（7月29日）</li> </ul>	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学実用検定（12月7日）</li> <li>・センター長によるチューター中間面談（12月12日～12月24日）</li> <li>・SPI・公務員対策講座（12月18日～1月15日）</li> <li>・2020年度前期新規チューターの募集（12月10日～1月17日）</li> <li>・チューター中間面談（12月12日～12月24日）</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度後期新規チューター募集（7月9日～8月7日）</li> <li>・オープンキャンパス（8月10日）</li> <li>・期末試験対策講座（数学・統計学基礎・統計学）</li> <li>・大西区学習支援事業「中学生対象夏期講座」</li> </ul>	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学発展課題対策講座（1月7・8日）</li> <li>・数学期末試験対策講座（1月22～2/4）</li> <li>・入学前特別講座①（1月27日）</li> <li>・チューター最終面談（1月30日～2月10日）</li> <li>・2019年度後学期MSLCプロジェクト</li> </ul>

	(8月19日～23日：名護中学校)		ト 発表会 (1月27日)
		2月	・データのまとめ・報告書作成 (1月28日～2月10日) ・入学前特別講座②統計基礎講座 (2月12日～19日)

## 8. 2019年度 数理学習センターチューター育成プログラム

### (1) チュータートレーニングプログラム (2019年後期)

期 日	プレゼンテーションのテーマ	チュータリングロールプレイ
事前研修会	①MSLC 概要・目的 ②チューターとは、積極性と責任 ③TR すべきこと・してはいけないこと ④セッションの始め方と終わり方 ⑤教育の目的とは	①数学検定過去問2級の問題 ②線形計画法 (エクセルソルバーの使い方) ③行列の応用 (エクセルで連立方程式を解く) ④統計 区間推定 (エクセルデータ分析ツール)
第1回	ビジネスマナー	指数・対数・方程式
第2回	アサーティブネス・陰褒め	対数
第3回	チームワーク	エクセル 線形計画法
第4回	モチベーション維持向上法	数学 行列と連立方程式
第5回	ストレスコントロール	標準偏差の活用・標準化
第6回	チュータートレーニングと社会人基礎力	偏差値
第7回	承認力I	正規分布
第8回	承認力II	ベイズの定理
第9回	スタディスキル	統計学 母平均の区間推定
第10回	マネジメントスキル	統計学 発展課題 エクセル
第11回	プレゼンテーションスキル	3次関数
第12回	トレーニングの振り返り	上級公務員試験対策問題 通過算
第13回	プロジェクト発表会リハール	上級公務員試験問題、Excel で極値
第14回	プロジェクト発表会リハール	
第15回	2019年度後期プロジェクト発表	
第16回	2019年度後期の振り返り	

### MSLC事前研修会

日程：2019年9月24・25日  
9:00～16:00

内容

(1日目)・チューターテスト(数学)  
・TRロールプレイ(数学)  
・MSLCの目的、業務内容説明  
・チューターとは  
・TRですべきこと、してはいけないこと  
・Excel講座(数学)

(2日目)・チューターテスト(統計学)  
・TRロールプレイ(統計学)  
・各担当決め  
・打ち合わせ(科目担当別)  
・Excel講座(統計学)

### チュータートレーニングⅠ TRロールプレイ

目的  
TRスキルの向上

方法  
TRを行ったチューターに対する評価

日程  
毎週月曜日5限

内容  
課題(数学・統計学・統計学基礎)

### TRロールプレイの評価・振り返り方法

TRロールプレイの評価 被評価者氏名( ) 評価者氏名( )

[ ]は評価標準(目標)  
評価基準 4:しっかりできている 3:ある程度できている 2:不十分 1:できていない

(1)問題の理解[何がわかっているか、このデータは何を表しているか、問題理解を深めるために質問または、説明をする。]

4 3 2 1

### 第2回 アサーティブネスと陰褒め

アサーティブネスとは、自分の気持ちや意見を、相手の気持ちを尊重しながら「誠実に」「率直に」「対等に」表現すること

陰褒めとは、ある人のことを第三者の前で認めること

陰褒めをすることで信憑性の高い承認をすることができる

### 第3回 チームワーク

互いに弱点を補完し合い、得意なことに集中することができる  
→チームの力が何倍にもなる!

一人では成し遂げられない目標も達成できる  
→自身のスキル・能力に自信が持てる!

様々な人の考えを聞くことができる  
→自分では思いつかない発想を学べる!

### 第7・8回 承認力Ⅰ・Ⅱ

自己実現をするためには承認欲求を満たす必要がある

6つの承認力について

日常の 特別な

9. 連携授業の報告

(1) 連携授業科目受講者数(前期:7科目9クラス、後期:7科目7クラス)

教養科目	数学		統計学		統計学基礎		情報科学と社会	
	高安美智子		木村・高安*,仲程		高安美智子		佐久本功達	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
合計(人)	17	33	115	39	60**	20	62	55
	50		154		80		117	

(\*後期の統計学は1クラスで仲程先生が担当) (\*\*1人聴講)

専門科目	診療情報系科目				情報系科目	
	人体構造・機	臨床医学	臨床医学	臨床医学	情報	コンピュータ概論
	大城真理子				天願健	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	17	11	12	16	34	62

(2) 連携授業のまとめ

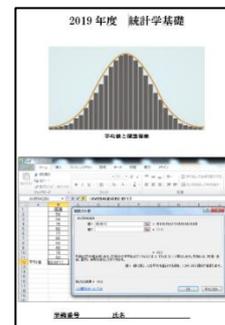
<自然科学特別講義「統計学基礎」>担当教員：高安美智子 チューター：田中里奈、芝毬香、夏目晃汰

① 受講者数・出席率・単位取得率等の3年間比較

	2017年	2018年	2019年	2019年後期
受講者	23人	53人	59人	21人
出席率	87.8%	92.8%	93.7%	83.0%
単位取得者(取得率)	21人(91.3%)	53人(100%)	57人(96.6%)	20人(95.2%)

② 教材

- 授業内容：統計検定3級程度の基礎問題から区間推定までの範囲
- 教科書 指定教科書はなく自主教材ワークブックを配布  
ワークブックの内容：予習課題・授業のワークシート・復習課題・自主学習教材（数理学習センターには参考書を多数揃えているので活用できる）



③リメディアル教育としての授業外学習課題

- NO.1 四則演算 NO.2 割合 NO.3 比と比例式 NO.4 濃度
- NO.5 SPI チャレンジ問題（損益算、濃度算）、 NO.6 基礎計算問題
- 毎週課題点検あり
- ※授業内で数学基礎力テストを実施し8割以上が単位取得の条件

④課題点検状況

2017年前期：83.0%、2018年前期：89.0%、2019年前学期：84.1%、2019年度後学期：72.7%

⑤2019年度後期 授業結果

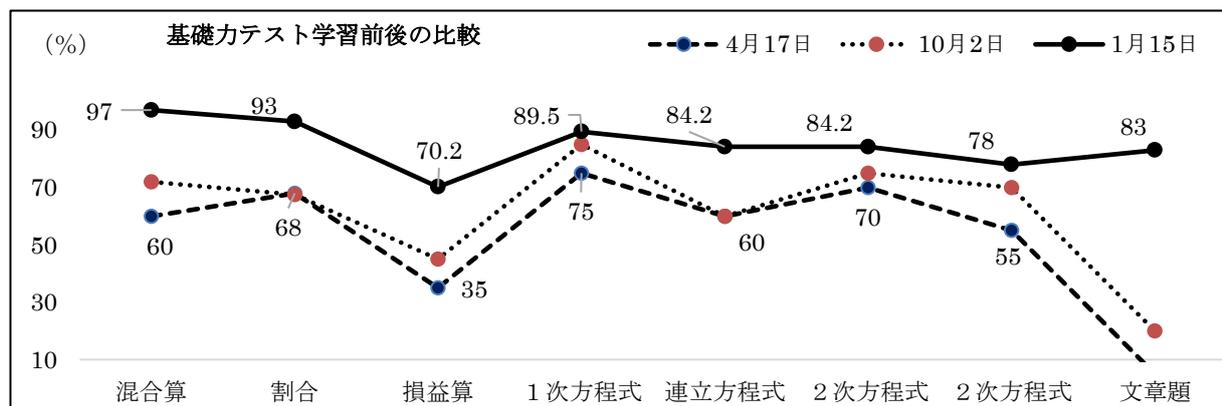
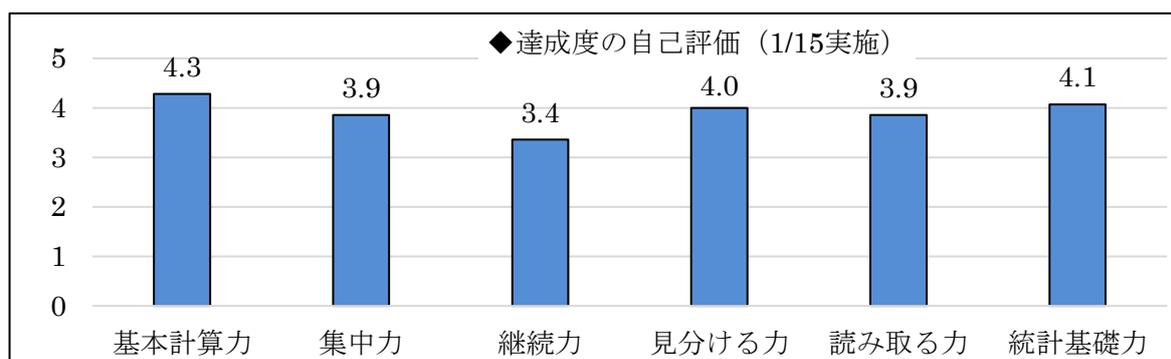


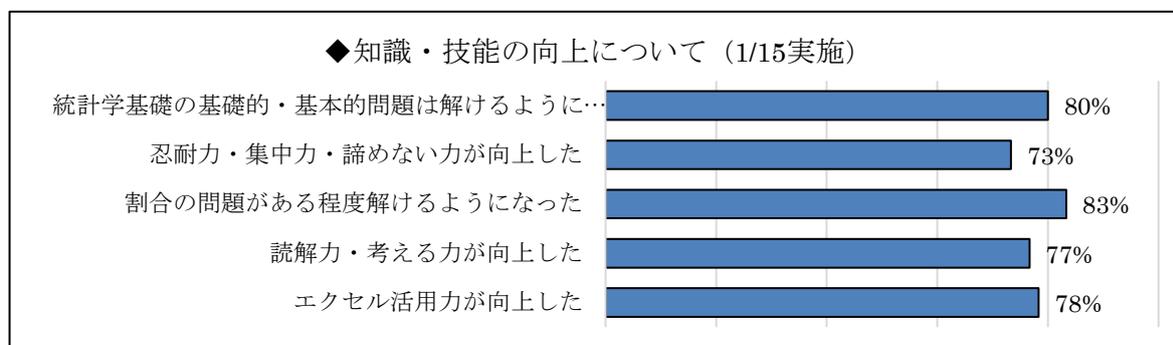
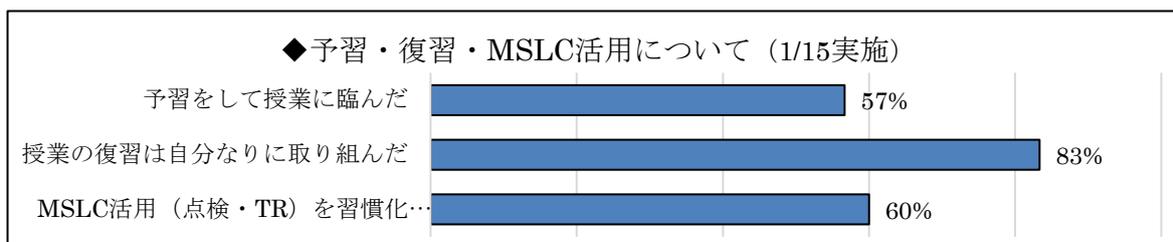
図 数学基礎力の学習前後の比較

⑤受講生によるアンケートの結果

【アンケート結果①】どのような力が付いたと思いますかという質問に対する5段階の自己評価である。



## 【アンケート結果②】



### ◆MSLC の対応について良かった点 (記述)

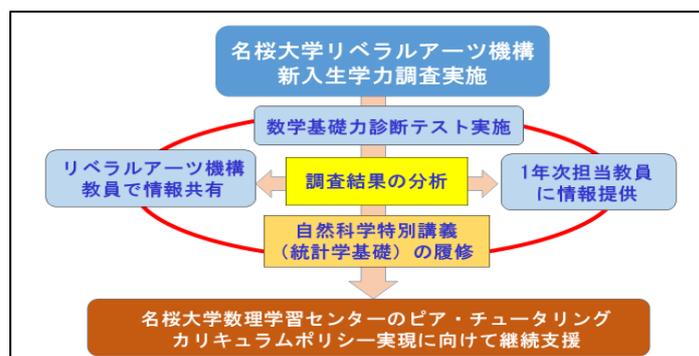
- ・分からないところがあってもすぐ答えを教えてくれるのではなく、答えられるまで誘導してくれたのが良かったと思った
- ・理解できるまでサポートしてくれとても助かった
- ・分からなかった問題なども優しく、丁寧に教えてくれるし、雰囲気なども良かったと思う
- ・予約なく行っても対応してもらえた
- ・分かるようになるまで付き合ってくれた
- ・わからない問題に関しては一問一問時間を割いてできるようになるまで一緒にやってくれた
- ・わからなくても、ちゃんと理解するまで丁寧に教えてくれた
- ・とても親切に対応してくれた
- ・わからないところがあったら、紙を使ったりして丁寧に教えてくれた
- ・パソコンも借りることができて、MSLC でエクセルも教えてくれたのでとても助かった
- ・対応が長くなっても、こちらが理解出来なくても何も言わずに丁寧に教えてくれた
- ・わかりやすく教えてくださったので、苦手なところも解けるようになってよかった
- ・自力で解けるようにチュータリングしてくれた
- ・分からない場合、わかりやすく図を用いて丁寧に説明してくれた

### ◆MSLC の対応で改善してほしい点

- ・混雑時の対応を改善してほしい (制限時間を作る、待っている人の順番が分かるようにするなど)

### 【考察】

- ・2019年度前期の受講者が59名と多く、希望しても受講できなかった学生がいたため、2019年度は後学期も開講することにした。しかし、後学期の受講者は前学期のような緊張感がなく、課題提出率の低下に繋がったのではないかと捉えている。
- ・数理学習センターの混雑で希望の時間に学習支援が受けられなかったという課題もあり、来期は予約を積極的に促すようにしたいと考えている。
- ・受講生の数学基礎力の実態から、リメディ教育の必要性を強く感じるようになった。しかし、15週の学習だけでは十分とは言えず、継続指導が必要な受講生の今後の指導も課題として残る。
- ・毎週積極的に数理学習センターで学習支援を受けている学生もおり、授業で得た自信や諦めないで集中して取り組んだ授業の成果を実感している受講生も多い。このような受講生は、積極的な授業外学習で、計算力、読解力、忍耐力が磨かれたと受け止めており、学習センターを有効に活用した結果である。



<数 学> 担当教員 高安美智子 担当チューター：馬場 星、刈谷志乃美、糸数勇利

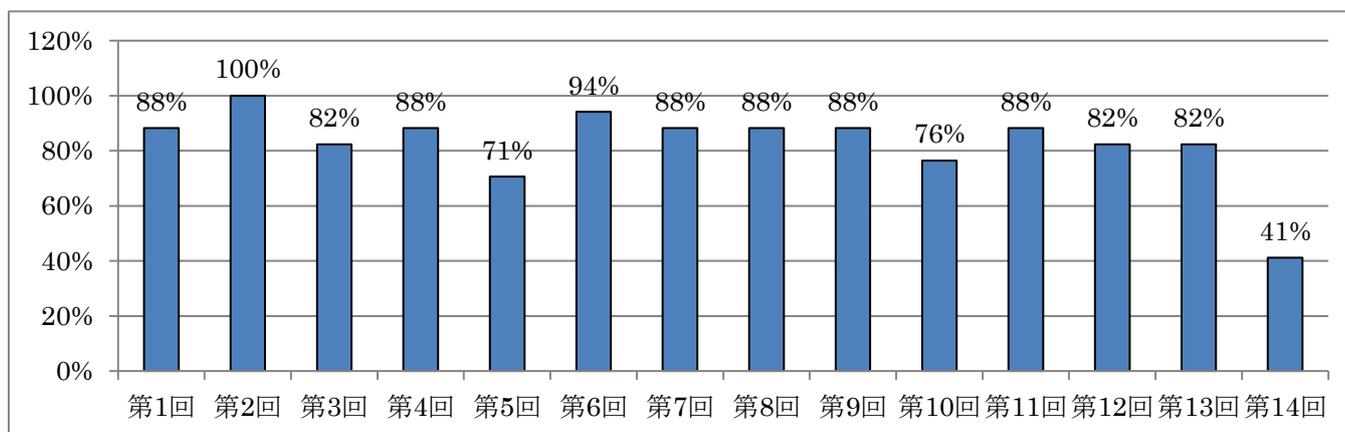
(1) 数学の到達度目標

- ① 数学の有用性や文化的側面を理解し、数学を学ぶ意義を伝えることができる。
- ② 数と量の概念を理解し、数学の実用的な技能（計算・表現・証明など）を習得する。
- ③ 問題の文脈を解釈し数学的な解決を行う過程を通して、論理的思考力を身に付ける。
- ④ 計算の手法を理解し、PCを活用した解の求め方を習得する。

(2) 数学では、学習習慣を身に付けさせ主体的に学ぶことで自ら数学基礎力を高めるというリメディアル教育を授業外学習として実施している。そのため多くの教材を準備して対応している。

- ① 授業の予習・復習課題
- ② 就職試験対策（SPI 非言語分野の対策問題や上級公務員試験問題等）
- ③ エクセル課題（表計算をエクセル関数を用いて求める、ソルバー機能を活用して求める等）
- ④ 数学史に関するレポート課題（自ら数学を学ぶ意義を考え、有用性や情緒性を味わう）

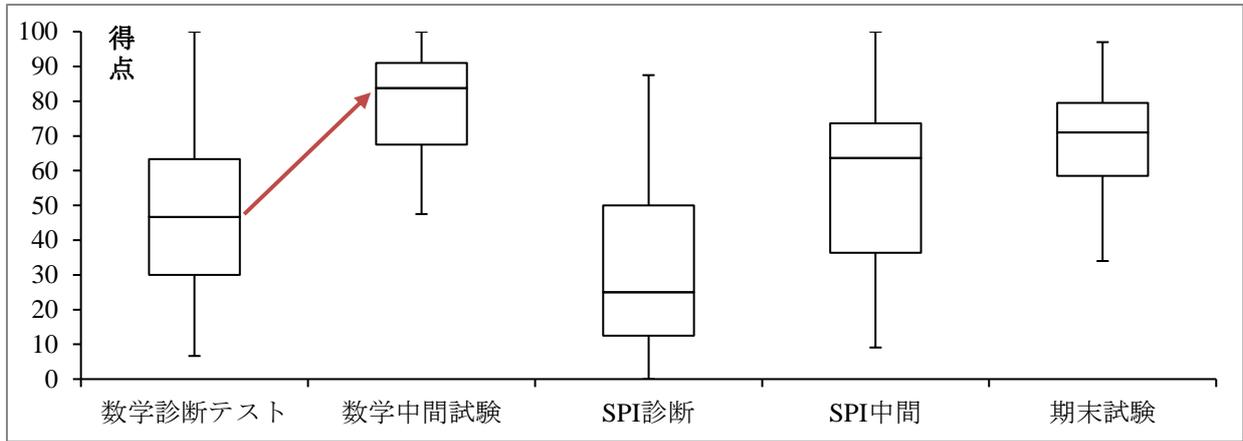
(3) 数学課題提出状況



(4) 授業の結果

① 数学 授業外課題の効果測定 学習前後の比較（\*期末試験は後半の授業内容）

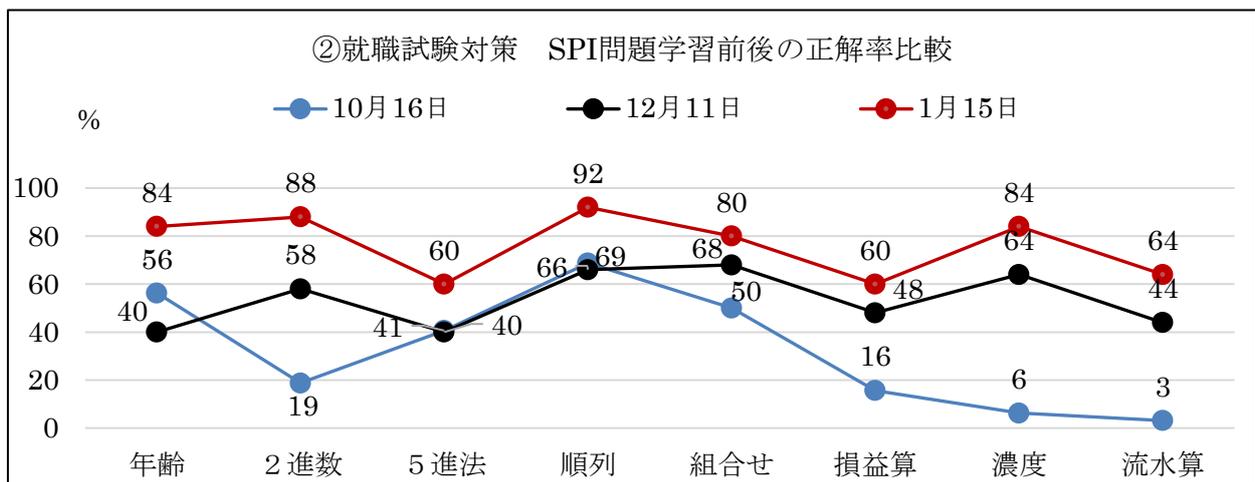
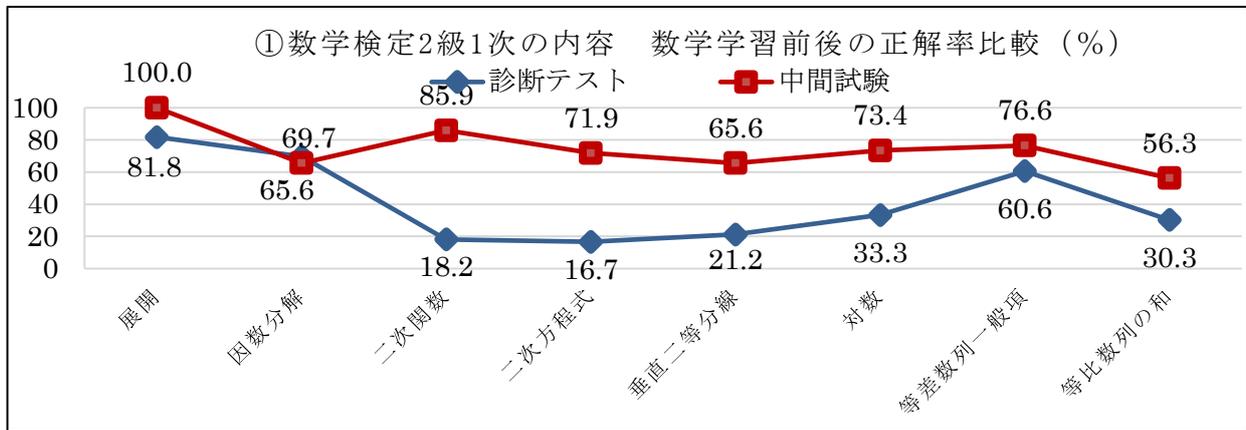
変数名	有効 N	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
数学診断テスト	31	48.4	46.7	26.7	708.05	7	100
数学中間試験	31	76.8	83.8	20.9	438.19	2	100
SPI 診断	31	29.0	25.0	23.1	535.28	0	88
SPI 中間	31	58.0	63.6	27.1	734.64	9	100
期末試験*	31	66.6	69.0	20.0	401.91	0	97



【考察】

数学診断テストは第1回授業で実施、数学中間試験は第9回授業で実施した学習前後の結果である。SPI診断テストは第3回授業で実施した後、数理学習センターでチュータリングを受け、SPI中間試験は第10回目実施した。SPI対策問題の提出率は90%であったが、中間試験と2週連続であったため、試験対策が不十分であったと考えられる。期末試験内容は違う分野であった。

② 診断テストと中間試験の問題別正解率比較



③ 自己評価と試験結果の比較

[質問]

この授業を受けてどれくらい次の力が付いたと思いますか。自己評価を4択で答えなさい。

- 3 : 友達に解き方を説明ができる
- 2 : ある程度自力で解ける
- 1 : 例題を見ながらであれば解ける
- 0 : 例題を見ても解けない

i) SPI 問題 : 平均値 評価 : 2.3 得点率 2.2%

評価項目	評価	正解率%
整式の展開	2.6	2.7
4次式の因数分解	2.7	2.1
SPI 問題 n進数	2	2.0
SPI 問題 年齢算	2.4	2.6
SPI 問題 損益算	2.4	2.5
SPI 問題 濃度算	2.2	1.8
SPI 問題 流水算	2.0	1.9

※正解率は3点満点に換算したものである。

ii) 授業内容 : 平均値 評価 : 2.0 得点率 2.2%

評価項目	評価	正解率		評価	正解率
指数・対数計算	2.1	2.2	期待値	2.1	2.1
線形計画法	1.7	2.1	集合	2.0	1.7
行列の計算	2.0	2.2	正規分布 95%のデータ範囲	2.3	2
数列の一般項	2.0	2.3	母平均の信頼区間	2.1	2
数列の和	2.0	1.7	微分法 接線の方程式	2.5	2
単利法と複利法の元利合計	1.7	2.1	3次関数のグラフ	2.3	1.7
単利法と複利法の積立元利合計	1.6	1.6	円の方程式	2.3	1.6
確率	2.2	2.7	楕円の方程式	2.1	2.2
ベイズの定理	1.6	1.5	双曲線の方程式	1.8	1.6

#### 【考察】

自己評価と試験の正解率と比較すると、i) の SPI 問題の結果は、双方に相関見られず試験結果が低くなっていることから、この程度はできるという見方があったと考えられる。しかし、ii) の授業内容の結果には、やや強い相関 (R0.69) が見られ、自己評価より試験結果が高く有意差が認められた ( $p < 0.05$ )。いずれも難易度が高いと極端に正解率が下がることから、計算力が未だ未熟である。

#### ◆ 第1回授業のアンケート結果

##### ① 数学を履修した動機

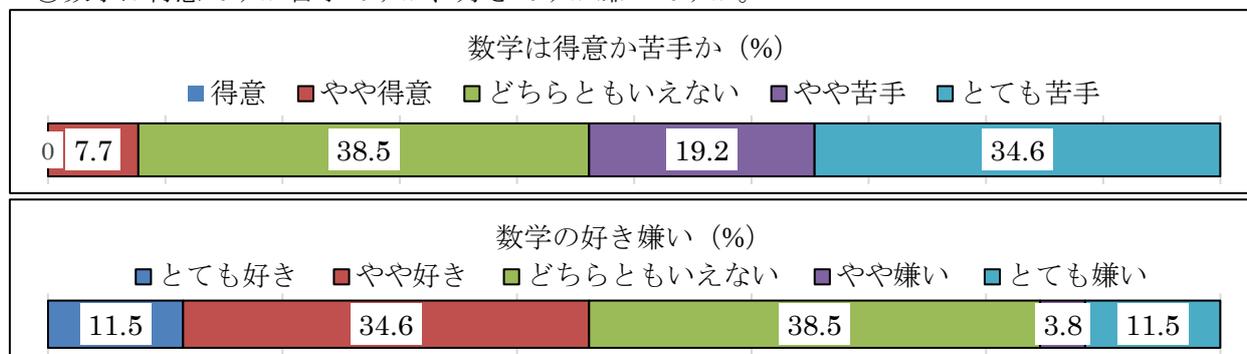
履修動機	第1	複数回答
数学をもっと勉強したいと思ったから	38.5%	46.2%
自然科学系を履修しなければいけないから	34.6%	38.5%
苦手科目を克服したいから	11.5% 1	26.9%
就職試験で困らないため	3.8%	19.3%
先輩に進められて	3.8%	3.8%
その他	7.7%	7.7%

【考察】 数学をもっと勉強したいからと回答した人の約6割は、苦手だからもっと勉強したという理由で約3割は高校でまあまあできたので簡単に単位は取れるだろうという理由で、残り1割が好きだから、得意だからもっと勉強したいという学生である。

## ②高校数学の履修状況



## ③数学は得意ですか苦手ですか、好きですか嫌いですか。



### 【考察】

- ・数学がとても嫌いと回答した学生は3名いた。その中の1名はリタイアした学生、もう1名はとても苦手であるが自然科学系を履修しなければいけないので補講も受けながら最後まで頑張った。もう1名は、入学時の成績が良いが数学はとても苦手と回答している。理解するのに時間がかかり苦手意識がかなり強いが、努力をして成績優秀である。
- ・数学が得意か苦手かの回答と数学の好き嫌いの相関係数は0.4と予想より低い結果であった。
- ・得意・苦手と好き・嫌いのどちらも入学時の成績や履修後の成績ともあまり相関は見られない。
- ・課題提出率と成績もあまり相関がなく、当然ながら授業中の態度や授業外学習への意欲や取り組みが、理解度や応用力と関係していると思われる。

## ④ この授業で身に付けたい力は何ですか。

- ・考える力 ・論理的思考力 ・数学の技術 ・柔軟な思考力 ・数学力 ・計算力
- ・ねばり強く何度も挑戦する力 ・数学の面白さを伝えられるようになりたい
- ・数学検定を合格できるくらいの力 ・問題に対する集中力を身につけたい
- ・基礎的な数学の能力 ・色々な面から物事を考える力 数学の計算力と応用力

## 第15回授業終了後のアンケート (回答者 27名)

### [1] 課題について

#### (1) あったほうが良い (19)

- 理由：予習・復習をすることで授業が分かるようになる。(13)
- 学習習慣が身に付く (7) 課題があったら要領よく勉強ができる (3)
- 課題がなかったらあまり勉強しないと思う (4)

#### (2) あってもなくてもどちらでもよい (4)

- 理由：課題がなくても授業についていける (2) 課題をやっても授業が分からない\* (1)
- やる人はやってやらない人はやらないでよい (1)

#### (3) ないほうが良い (4)

- 理由：課題をやるのが負担である (3) 点検行くのが負担である (1)

### 【考察】

- ・7割が課題(宿題)はあったほうが良いと回答しており、前向きに学習していたことが窺える。
- ・課題をやっても授業が分からないと回答している学生は、遅れ気味に課題をこなしていた。

### [2] 数理学習センターとの連携

- (1) 数理学習センターがあってよかった (23)

- 理由：安心して課題ができる (3) MSLC がなければ授業についていけないと思う (10)  
 試験対策もやってくれるから (6) MSLC がなければ単位が取れなかったと思う (1)  
 基礎から丁寧に教えてくれる (12) 高校で学んでいない分野を学べた (1)
- (2) 数理学習センター (MSLC) はあってもなくても良い (3)  
 理由 ほとんど利用しなかったから (1) MSLC に行くのが面倒であった (3)
- (3) 数理学習センター (MSLC) はない方が良い (1)  
 理由 MSLC に行くのが面倒であった (1)
- 【考察】・数学履修者はこれまで 100% の受講者がセ学習センターを利用していたが、今回は 1 人  
 だけ 1 回も利用していない受講者がいた。

[3] MSLC の利用について

ほとんど毎回積極的に通った	10	37%
ときどき点検・チュータリングを受けた	14	52%
あまり利用しなかった	2	7%
ほとんど利用しなかった	1	4%

[4] チュータリングについて

毎回自力でやって点検だけ受けた (あまりチュータリングは受けなかった)	4	15%
半分以上自分で解いて少しだけチュータリングを受けた	9	33%
少しは自力で解いてできなかったところをほぼ毎回チュータリングを受けた	6	22%
ほとんど自力では解けず、毎回チュータリングを受けて課題をやった	3	11%
自分である程度やっていたがほとんど点検を受けなかった	3	11%
最後の期限前にまとめて点検やチュータリングを受けた	2	7%
あまり利用しなかったため点検もチュータリングも受けなかった	0	0%

[5] ピア・チュータリングについて

良く理解でき分かり易かった	15	62%
ある程度分かり易く理解できた	9	37%
あまり理解できなかった分かりにくかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%

[6] MSLC の良かった点や気づいた点、改善点などを書いてください。

- ・人が優しい。MSLC チューターとして、忙しくもこの 1 年間は本当に楽しく充実していた。
- ・優しく教えてくれた。世間話など数学以外でも話してくれた。
- ・できるまでとことん教えて下さり、できるようになると嬉しかった。
- ・複数のチューターが常駐していて、分からない問題でも納得のいくよう説明してくれた点。
- ・丁寧に教えて下さり、全く数学が解けない私にはとてもありがたかった。
- ・どんな簡単な問題でも丁寧に基礎から教えてくれた。
- ・丁寧に教えてくれ、分かりやすかった。
- ・毎週お世話になっていたが、いつも明るく迎え入れてくれて楽しかった。
- ・チューターの指導がとても分かりやすかった。
- ・図などを書くなどして、丁寧に教えて下さったので、行くと理解できて良かった。
- ・チューターと接しやすかった。教え方がわかりやすかった。
- ・問題につまずいた際に、公式や答えまでの導き方を例を用いたらより理解しやすかった。

※改善点

- ・授業課題の解答は個人でやって、それでも理解できない部分のみチュータリングで教えたほうが良い。行くのに勇気がある
- ・混んでいると受けられなかったり、ミーティングが始まると見てもらえなかったりしたので、ミーティングの時間とかは事前に知らせて欲しかった。
- ・点検チュータリングを受けようと意欲を持っていくが、長い場合だと空きコマがすべてつぶれる

- ・くらい待たされ、点検もチューリングも行く気がなくなることが頻繁にあった。
- ・一人の時間を制限するか予約制にして欲しい。

<統計学 後学期> 担当教員：仲程基経

作成者：亀井謙二郎

担当者：亀井謙二郎・大沢詩音・水谷日向子・吉高恵理菜

連携方法：統計学受講者に対し、WB を配布。受講者は復習課題、予習課題を自宅で解き、MSLC で解答を行った。なお、必要に応じて、MSLC で講座を実施した。

開講講座：開講講座は以下のとおりである。

- ・自習課題対策講座
- ・発展課題対策講座
- ・中間と期末試験は対策プリントを配布し、解答に来た人にチュータリングという形をとった。

講座の詳細

### ①自習課題対策講座

統計学の授業第3週目から配布する自習課題の解説を行う講座である。前は、単元ごとに講座を分け、8回？という複数回講座を開いていたが、今回は Excel 以外の単元を一日にまとめ、Excel は別日という二日間にわたって行なった。その理由としては、後期で履修人数が少ないことと、前期におけるこの講座の出席率が低かったことである。また、この課題量であれば、Excel 以外であれば90分ですべて終わらせることができ、複数回に分けるよりも効率が良いと考えたからである。講座の進め方としては、各自で問題を解かせ、分からない場合は手をあげてもらおう方式をとった。そして、重要な部分においては、前で全員に向けて説明を行なった。

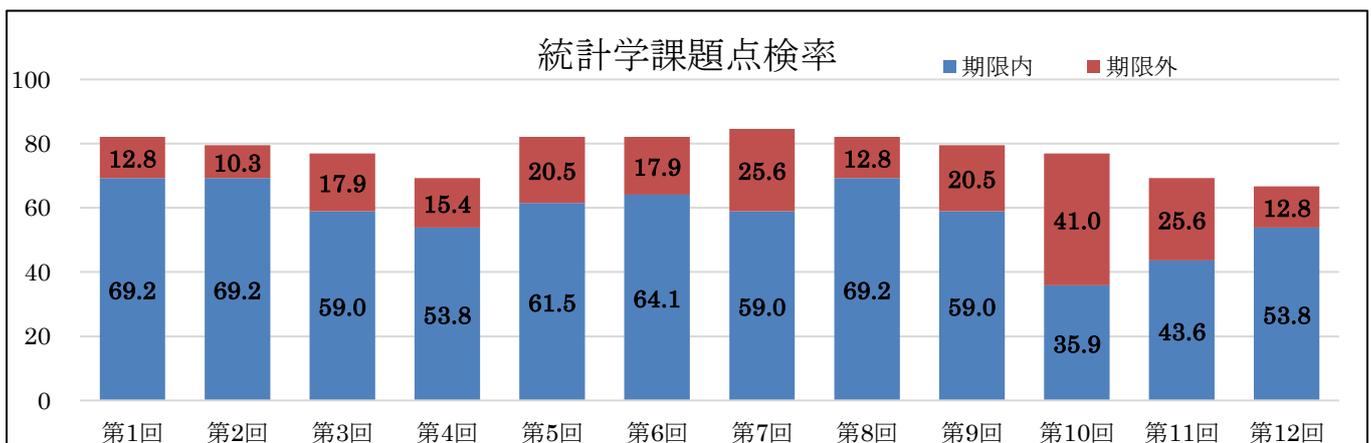
### ③発展課題対策講座

発展課題レポート（自分で100個のデータを集めて区間推定を行うレポート）をサポートする講座。今回は、2日間講座を開講し、受講生は、1日目2人、2日目5人であった。

この講座も人数が少なかつたため、少人数によるチュータリングという形で行なった。(本来はスクリーンで、チューターが問題を解きながら、やり方を示す)

今回はレポート完成版を事前に用意し(大沢が用意)、例としてレポートの形を具体的に示すことができ、チューターからも好評を得た。

この講座の注意点としては、事前に100個のデータをパソコンに打ち込んでくること、ソフトを Excel で統一してもらうことである。



## <コンピュータ概論 後学期>

担当チューター：宮川寛太郎・西晃人

### (1) 連携内容

科目名：コンピュータ概論（金曜3限）

担当教員：天願 健先生

受講者数：34名（4年次：4名 3年次：14名 2年次：36名 1年次：41名）

### (2) 連携目的

- ①コンピュータ（ソフトウェア）の基礎知識を深める
- ②コンピュータ概論受講者への学習支援
- ③ITパスポート受験者への学習支援

### (3) 連携方法

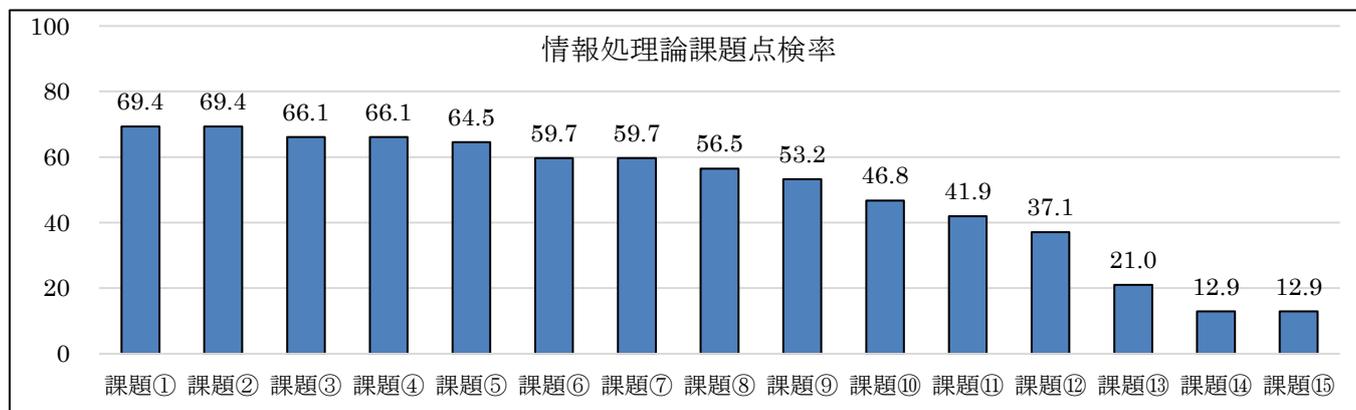
- ①課題（中間試験までと期末試験までの2回分）を作成し受講者に配布
- ②チューターが課題の解答を行い、課題冊子に担当チューターのサインを書き、名簿に点検のチェックを行う（希望者にはチュータリングを行う）

(4) 課題内容 ・前半課題①～⑧（計8枚） ・後半課題⑨～⑭（計6枚）

### ⑩開発技術 I

- ①プロセッサ
- ②メモリ
- ③記録媒体・記憶階層
- ④入出力デバイス
- ⑤システムの構成
- ⑥システムの評価指標
- ⑦ハードウェア・入出力装置
- ⑧出力装置
- ⑨ハードウェアまとめ

### (5) 課題提出状況



### (6) まとめ

(今期の取り組み)

- ①今期は課題は去年のものを参考にしつつ、8割ほど問題を変更した。また、親しみやすいようにキャラクターの絵柄を入れるなど工夫を入れた。今回はネットのITパスポートの過去問道場を真似て、問題の解説プリントを作成した。その際、分からなさそうな内容に関しては、別途調べて解説を作成した。

- ②MSLCに来るきっかけになるとして、今期初めてミニテストの点検も行った。

適切な課題の作成 受講者が難しいと感じる問題の把握

(課題・改善点)

- ①課題提出率の低さ→課題点検方法、問題形式、課題内容の改善、計算問題への対策の実施

②IT パスポート試験勉強につなげるための取り組みの実施

→IT パスポートの紹介、呼びかけの徹底、点検に来た際に問題を渡してみるなど...

③情報系の講座を開く

<情報科学と社会> 担当教員：佐久本功達先生

チューター：宮川寛太郎・西晃人



**実施内容**

SPIチャレンジ問題② N進法

問題3 10進法の2711は8進法ではどのように表現されるか。  
10進法→N進数

問題2 3進法の2010は10進法ではどのように表現されるか。  
N進数→10進数

問題6 5進法における計算式、 $104+30$ の答えを10進法で表すといくらか。  
N進数での計算

**課題提出状況**

課題：SPI問題  
課題締切：12月6日  
提出率：76.4%

昨年度後期より**3.8%**増加

**成果・課題**

- MSLCの利用率の変化  
...平均63%の受講者がMSLCを利用するようになった
- 計算問題への対策の強化  
...課題以外に講座を開く必要がある
- 課題提出率が低い  
...呼びかけや課題を促す講座をする

<診療情報>

担当教員：大城真理子先生

チューター：杜 銀偉

①臨床医学各論Ⅰ 登録人数：11名

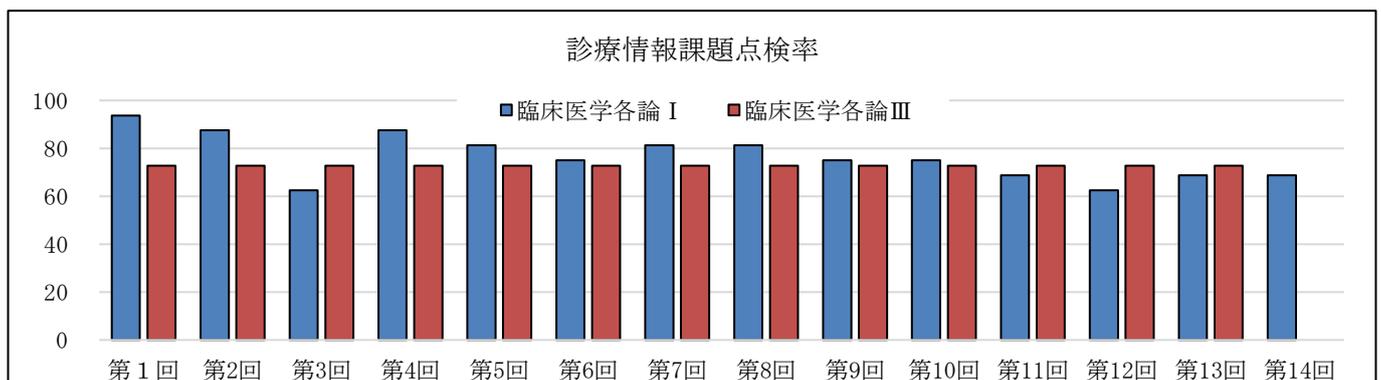
②臨床医学各論Ⅲ 登録人数：16名

成果：・連携授業の課題を通して受講者が授業の予習と復習につながった

・診療系の学生への学習支援できました（各論Ⅰの提出率69%、各論Ⅲの提出率80%）

課題：診療系チューターが診療系の課題を点検する機会が少ない

→診療系の学生の利用頻度が高い時間帯に診療系のチューターがシフトに入るようにする



10. 2019年度後期 チューターアンケート (2020.01.27 実施)

1.チュータリングで一番重視していることはなにか

- ・何が分からないのか聞くことを重視している、何に困ったのかを聞くようにしている
- ・チューターのペースに合わせてTRをすること。
- ・チューターとのコミュニケーション
- ・相手が知っている情報で理解していけるように進めていくこと、解き進めるのに必要な情報はまず話してしまうこと
- ・チューターの理解のために解答ではなく、解答に導くための過程を教えること。相手と同じ目線で考えること

<ul style="list-style-type: none"> <li>・忍耐強く、一緒に問題を考える</li> <li>・チューティーと楽しむこと、チューティーにとって新しい知識を提供すること</li> <li>・相手の理解の程度を理解する</li> <li>・チューティーの目線になって問題を見ること</li> <li>・チューティーが自分から答えを導けるように TR する</li> <li>・チューティーがわかったかどうか</li> </ul>		
2.チュータリングで自分が工夫したこと		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手と会話して、引き出すように工夫した</li> <li>・問題を理解できているか質問をしてから TR を始めること</li> <li>・チューティーをいかにリラックスさせるか</li> <li>・まずテキストを振り返って思い出してもらう</li> <li>・チューティーがどのように考えているのか聞いて、どこを理解していないのかわかるようにする</li> <li>・わかりやすく教えること</li> <li>・しっかり振り返りをして、定着させること</li>   <li>・工夫できるほど熟練されていません</li> <li>・なるべく質問の数を多くすること、肯定を多めにする</li> <li>・勉強が楽しいと思ってもらうようにする</li> <li>・説明するときに具体例を使う</li> <li>・手始めに自分が納得できたやり方を説明する</li> </ul>		
3.チュータリングで困ったことは何か		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・数Ⅲの内容を教えることが難しい</li> <li>・自分で理解できている範囲では、チューティーに理解してもらえなかったこと</li> <li>・自分がその問題の教え方を準備していなかったとき</li> <li>・テキストなどを調べたら分かることを聞いてきたこと、勉強不足で説明できなかったこと</li> <li>・どうやったらわかりやすく質問することができるのか</li> <li>・丁寧に答えを教えないように一緒に考えたこと、答えを写したがるチューティーへの対応</li> <li>・チューティーが解いてきていない、多分人のを写してきたんだろうなという解答</li> <li>・質問をした際に相手が理解できなかったとき</li> <li>・統計学で分からない問題がある</li> <li>・忙しい時期にまとめて持ってくる人</li> </ul>		
4.困ったときにどのようにして解決したか		
<table border="0"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩チューターに助けを求める</li> <li>・パートナーに頼る or 時間をもらう</li> <li>・先輩に聞いたり、ネットで調べました</li> <li>・とりあえず自力で解いてもらって、その後質問に応じる。写して来たんだろうというのは正直対処できていない</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎に戻って考え直した</li> <li>・そのときに調べて答えられるだけ答えた</li> <li>・やんわり、答えを自力で導くよう促した</li> <li>・他のチューターに聞いたり、自分で調べたりした</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩チューターに助けを求める</li> <li>・パートナーに頼る or 時間をもらう</li> <li>・先輩に聞いたり、ネットで調べました</li> <li>・とりあえず自力で解いてもらって、その後質問に応じる。写して来たんだろうというのは正直対処できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎に戻って考え直した</li> <li>・そのときに調べて答えられるだけ答えた</li> <li>・やんわり、答えを自力で導くよう促した</li> <li>・他のチューターに聞いたり、自分で調べたりした</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩チューターに助けを求める</li> <li>・パートナーに頼る or 時間をもらう</li> <li>・先輩に聞いたり、ネットで調べました</li> <li>・とりあえず自力で解いてもらって、その後質問に応じる。写して来たんだろうというのは正直対処できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎に戻って考え直した</li> <li>・そのときに調べて答えられるだけ答えた</li> <li>・やんわり、答えを自力で導くよう促した</li> <li>・他のチューターに聞いたり、自分で調べたりした</li> </ul>	
5.学習者(チューティー)が成長したと感じるのはどのような状況か		

- 解き方を理解して、「これってこういうことですか?」と言われたとき
- 前回チュータリングした内容の課題が解けるようになっていたとき
- 一つ教えると、類似問題は自分で解いているとき
- 自分で解き進めたり、深く質問したとき
- 終えたとき、「ありがとうございました」と笑顔で終えたとき
- 今まで解けなかったが自力で解けるようになったとき
- テストで高得点を取ったとき
- アドバイスを覚えていて問題を解いたとき
- 同じような問題が出てきたときに解けるようになっていたこと
- テスト後に「うまくいった」と言われた時や、問題をスラスラ解けた時
- 教えた後に似た問題が解ける
- 自分で説明できるようになったとき

#### 6. チュータリングに関してどのようなトレーニングを受けたいか

- チューティーがつまずきそうなところの内容
- 授業で使うエクセルの内容、統計学の検定のところ
- 数学の発展問題について ・エクセル
- 声かけのバリエーション(合ってなかったときとか、いらだってそうとき)
- チューティーが自主的に考えていけるような TR

#### 7. チュータリングで自分に足りないところがあるとしたらどういう点か

- 分かりやすく伝える力
- チューティーに質問を投げかけながらチューティー自身がわかって解けるように導く力
- 教え方が雑なときがあるところ
- 教材内容、説明してしまいがちなところ
- 問題への理解度、どのように質問したらわかるのかどうか
- 答えを教えてしまうところ
- 勉強する
- 自分の解法を相手の理解にあわせる
- 数学力、もっと能動的に解かせる力(ついつい答えの近道を教えてしまう)
- 確率をとく知識や考え方
- 数学のエクセルや行列、統計学
- 瞬時に適切な説明が浮かばないこと

#### 8. チューターとしてどのような力が付いたと思うか

- コミュニケーション力、基礎力
- 多少の指導力
- 相手に考えさせる力、エクセル、パワーポイントを扱う力、統計学の知識
- コミュニケーション能力、教える力
- 忍耐強さ
- 知識をまとめる力
- 深い理解
- コミュニケーション力、忍耐力、俯瞰的に物事を見る力
- 学習支援をする力とコミュニケーション力

### 3.3 ライティングセンター活動報告

#### 1. MWC の目標

センターは、全学学生・教職員を対象とし、多様な領域にまたがる文章の論理的構造の理解と論文作成法の習得を支援することで、個々の発信力を強め、学術的文章を書く力を育てることを目的とする。  
(センター規程より)

#### 2. MWC の活動

- (1) 学部・大学院生チューターの育成と指導およびチューター業務監督
- (2) アカデミックライティング科目のコーディネイトと関連科目・組織との連携
- (3) タームペーパーの指導法と開発およびコンサルティング
- (4) 文章力・論文執筆向上に係る授業方法指導・開発
- (5) その他目的達成に必要と認められる活動 (センター規程より)

#### 3. MWC 構成員

- ・センター長：奥本正 (スポーツ健康学科)
- 副センター長：清水かおり (看護学科)
- センター専任教員：真喜屋美樹 (リベラルアーツ機構)
- センター非常勤講師：謝花佐和子 (2019年7月～ 週2日)
- センター職員：戒田峻 (2019年7月～)
- ・チューター：前期 12名 (4月：10名、5月～6月：11名、7月～8月：12名)  
後期 13名 (9月～11月：13名、12月～3月：11名)

#### 4. 主な活動内容

##### 【前学期】

- 5/10～5/21 「アカデミックライティング I」 (第1回課題) チュータリング  
5/17 MWC ホームページ開設  
5/21～6/25 「アカデミックライティング I」 (第2回課題) チュータリング  
6/8 オープンキャンパス (小論文お悩み相談)、チューター研修会  
6/20 TEC システム前日予約開始  
7/4～7/26 「アカデミックライティング I」 (第3回課題) チュータリング  
7/16～7/26 「大学と人生」 (タームペーパー) チュータリング  
7/30 2019年度前学期活動報告会

(チュータリング利用件数 155件)

##### 【後学期】

- 9/27 メンバー顔合わせ (後学期第1回ミーティング)  
10/5 新人研修会  
10/19, 26 北部地域高校生対象小論文講座  
10/24 3 学習センター合同研修会  
11/23 日本リメディアル教育学会九州・沖縄支部大会 チューターフォーラム  
11/25～1/31 「大学と人生」 (タームペーパー) チュータリング  
1/10, 15, 16, 27 「大学と人生」 ワークショップ  
1/27 入学前特別講座① (ライティング)、2019年度後学期活動報告会  
2/11 外部講師 (早稲田大学) によるライティングセンターチューター研修会  
2/12～14 入学前特別講座② (ライティング)

(チュータリング利用件数 106件)

#### 5. センター利用状況 (チュータリング利用件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H31,R1	0	35	43	77	0	0	1	3	8	94	0	0	261

## 6. 連携科目

前学期：「アカデミックライティングⅠ」、「大学と人生」

後学期：「アカデミックライティングⅠ（Rクラス）」、「大学と人生」、「体育・スポーツ史」、「文学」、「沖縄の文学」

## 7. 学内・学外者対象のワークショップおよび講座

### 1. ワークショップ

#### ①【「大学と人生」タームペーパーの書き方がわかる！ワークショップ】

目的：タームペーパーの質の向上、「アカデミックライティングⅠ」の内容の復習、課題提出前のセンター利用予約緩和

対象：「大学と人生」受講学生

日時：2020年1月10日、15日、16日、27日

参加人数：計1名

### 2. 講座

#### ①【北部地域高校生対象小論文講座】

目的：北部地域の高校生の文章力向上（小論文の書き方を理解してもらう）

対象：北部地域の高等学校（7校）の3年生

定員：各高校6名（計42名）

日時：2019年10月19日、26日 8:45～16:30（1グループ当たり200分の講座を3回実施）

内容：小論文の執筆、書き方に関する座学、チュータリング

参加人数：41名（宜野座高校：8名、名護高校：25名、名護商工高校：4名、辺土名高校：1名、本部高校：3名）

#### ②【入学前特別講座①（ライティング）】

目的：高校生活から大学生活への円滑な移行を図る、大学生活に向けて期待や目的意識を醸成する、基礎学力を測り入学後の主体的な学びに繋げ大学で学ぶための準備教育とする

対象：推薦入学で合格した北部地域の高校生（入学予定者）

日時：2020年1月27日

内容：基礎力診断テスト（小論文）、入学予定者と学生（チューター）の交流会、大学の授業体験

参加人数：50名

#### ③【入学前特別講座②（ライティング）】

目標：大学生に求められるレポート・論文とは何かを理解する、与えられた資料を正確に読み取ることができる、資料を使いながらレポートを書くことができる、チュータリングを体験し自らレポートを作成・改善できる

対象：基礎力診断テストの結果において受講対象となった生徒（17名）

日時：2020年2月12～14日

内容：座学（レポートとは何か、資料の探し方、引用の仕方、校正・推敲の仕方）、チュータリング、課題（レポート執筆）、グループワーク（資料読解、専門家グループ会議、ブレインストーミング、ジグソーリーディング）

## 8. チューター研修会

今年度は前学期に1回、後学期に3回の研修会を行った。また、新たな取り組みとして、学会におけるチューターフォーラムへ参加した。研修会では、主に新人チューターを対象にセンターの

目的や活動内容を説明し、実際のチュータリング体験（ロールプレイ）を行った。また、2月11日には早稲田大学ライティングセンターから講師を招き研修会を行った。主に早稲田大学ライティングセンターでのチューター育成プログラムやチュータリング方法について説明があり、ロールプレイやグループワークを行い、その内容について講評・フィードバックをいただいた。今後のチュータリングにおいて非常に参考になる研修会であった。チューターフォーラムでは、他大学のチューターとの交流・意見交換を行い、それぞれの活動における悩みを共有し、その改善方法を模索した。これまで前例が無かった他大学のチューターとの交流は、チューター自身がその存在意義や活動の重要性に気づくことができる、非常に有意義な時間であった。

#### 9. チューターミーティング

センター開室期間中に週1回のチューターミーティングを行った。内容としては、前半にセンターの運営に関する協議や報告が行われ、後半はチューターの能力向上を目的としたトレーニング（勉強会）を行った。

#### 10. 係活動

##### 1. 広報

主に Twitter や Instagram 等の SNS を活用した告知、ポスターの作成、ニュースレターの作成等を行った。

##### 2. 統計

Google フォームを利用したセンター利用者アンケートの作成や、センター利用者統計の作成等を行った。

##### 3. 会計

出面表の確認や時間外勤務の把握、出面表・業務日誌の記入方法の改善を行った。

##### 4. 育成

新人チューターの育成プログラムを作成し、新人育成の中心を担った。

##### 5. 議事録

チューターミーティングの議事録を作成した。

#### 11. 新人チューター育成

主に文章力、文章診断力、チュータリング能力の3つの能力向上を目標に、育成プログラムや使用する資料（実地研修評価シート、独り立ち審査評価シート、スケジュール表等）の作成を行った。

育成する能力	実施内容
文章力	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題図書を読み、要約文を作成する</li> <li>レポートの執筆</li> </ul>
文章診断力	正誤問題、文章診断
チュータリング能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>チュータリング見学</li> <li>ロールプレイ：チューターを相手にチュータリングを行う（ブレインストーミング、文章診断）</li> <li>実地研修（5回以上）：先輩チューターの観察の下、実際に利用者のチュータリングを担当する</li> <li>独り立ち審査：先輩チューターがチューティー役を担うロールプレイ方式で、センター長とリーダーが審査員となり審査を行った。</li> </ul>

#### 12. 総評

今年度前期・後学期とも専任教員がセンター業務を外れることとなった。また、センター職員も後任が見つからず、6月までセンター職員不在の状態での運営になった。センター職員の業務は学生会館運営室職員が業務の一部を担当した。センター業務は、センター長がチューター育成、チューターミーティングへ参加し、センター業務を代行した。しかし、センター長は学科長も兼

任していたため、センターには週に2-3回程度しかセンターに在中できなかった。このままでは、チューター育成等に支障をきたす恐れがあるために、7月からはセンター専任の非常勤講師が週2回午後にセンター業務に勤務することとなり、センター業務をセンター長とともにいった。また、非常勤講師は上記の時間以外にも、チューター研修会、高校生対象の講座、オープンキャンパス等のセンターで実施する講座等にも参加した。ただし、センター専任非常勤講師はセンター運営委員会のメンバーでないため、センター運営会議には参加しなかった。このような状態で今年度のセンターの運営を行った。7月以降はセンター職員、専任非常勤講師がセンター運営に係わったため、センターの運営はスムーズに行くようになった。

今年度新しくセンターで取り組んだものは入学前特別講座（小論文・ライティング）である。北部枠推薦入試合格者50名を対象に基礎力診断テスト（小論文）を実施し、ライティング能力に課題のある高校生17名を抽出し、入学前特別講座を実施した。講座は、大学で課題としてよく出題される論証型レポートを書くというものであった。講義やチュータリングを通して、ライティング能力の向上を目的とした。受講生からは講座の内容が難しいとする声が多かったが、満足度は高く、初年度としては成功といえる。

次年度のライティングセンターの課題は、センター運営に支障をきたさないチューター数の確保とチューターの継続率の向上、チューターのチュータリング能力の向上、連携授業の増加や中間評価・卒業研究論文への対応によるセンター利用者数の増加などの課題がある。センター開設から4年が経過し、少しずつではあるが計画的にセンターが運営されるようになってきた。次年度の前期もセンター専任教員がセンター業務を外れることになったため、センター長を中心にセンター運営委員、センター事務職員、チューターが一丸となってセンターを運営していく必要がある。

（文責：ライティングセンター長 奥本 正）